

阿武隈川玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり 説明資料



玉川村

国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所

阿武隈川玉川村乙字ヶ滝かわまちづくりの目的・テーマ

乙字ヶ滝は日本の滝100選に選ばれた名滝であり、付近には芭蕉が訪れ句を詠んだことを示す石碑や不動堂、昭和2年永久橋として落成した乙字橋等、歴史的環境、公園、サイクリングロード（乙字ヶ滝公園が起点）等が整備されている。

○乙字ヶ滝地区周辺を交流拠点に！

玉川村では、**自然と歴史の拠点である乙字ヶ滝地区**に、カヌー体験や自然・歴史探勝、散策等のレクリエーションのため、**立ち寄る機会（楽しみ方）を増やし、現地での滞在時間を延ばせる空間づくり**を行う。滞在時間が延びることで、来訪者同士や来訪者と村民の交流の機会が生まれ、**賑わいと交流の場となる空間を村及び地域等と連携して整備**することとする。

「芭蕉も愛でた日本の滝100選・乙字ヶ滝を新たな交流拠点に」

立ち寄る機会を増やす



滞在する時間を延ばす



交流が拡大する



日本の滝100選・乙字ヶ滝



乙字橋（昭和2年落



サイクリングロード



乙字ヶ滝と対岸景観



不動堂と乙字ヶ滝



乙字ヶ滝公園

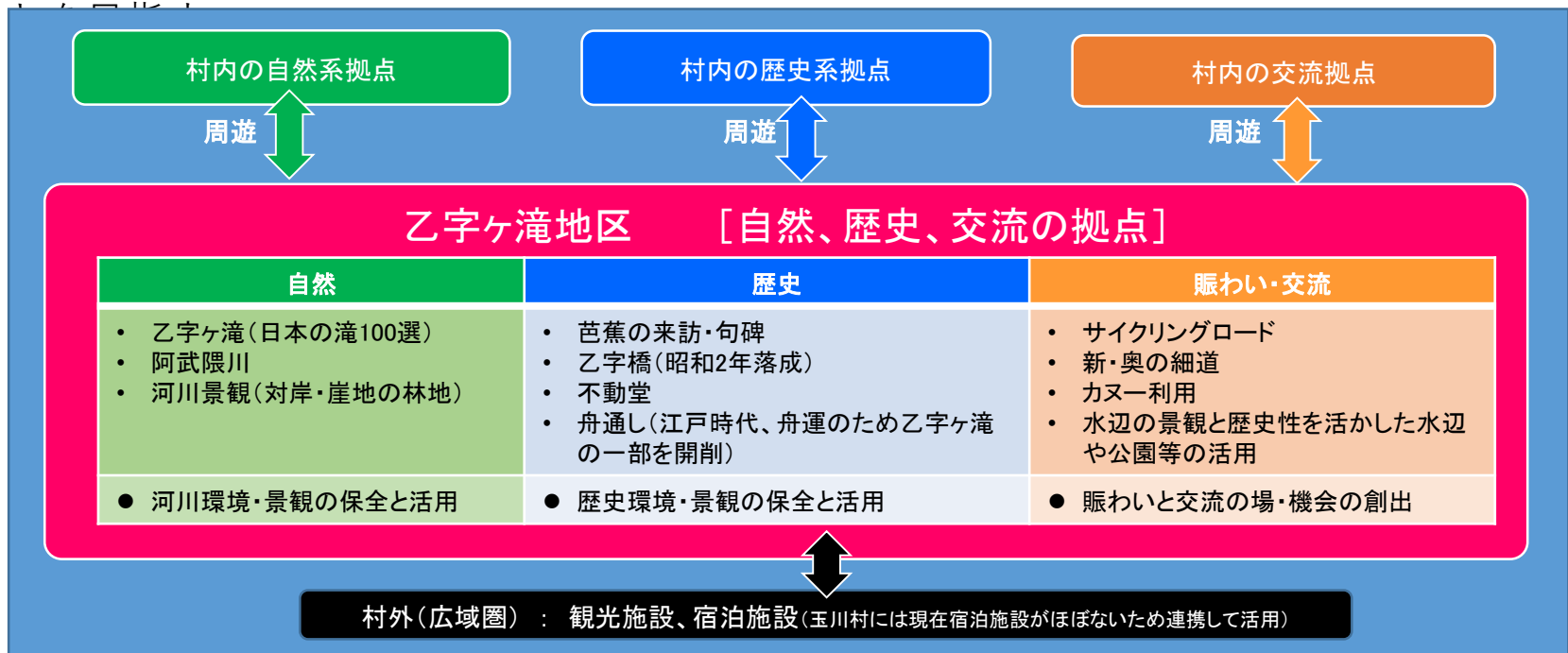
阿武隈川玉川村乙字ヶ滝かわまちづくりの目的・テーマ

○乙字ヶ滝の交流拠点を、村内の各観光拠点と結び、周遊性を主体とした利活用を進める。

かわまちづくりにより整備される乙字ヶ滝地区を、村内の各地区で進められているまちづくりと連携し、周遊性を主体とした利活用を図る。

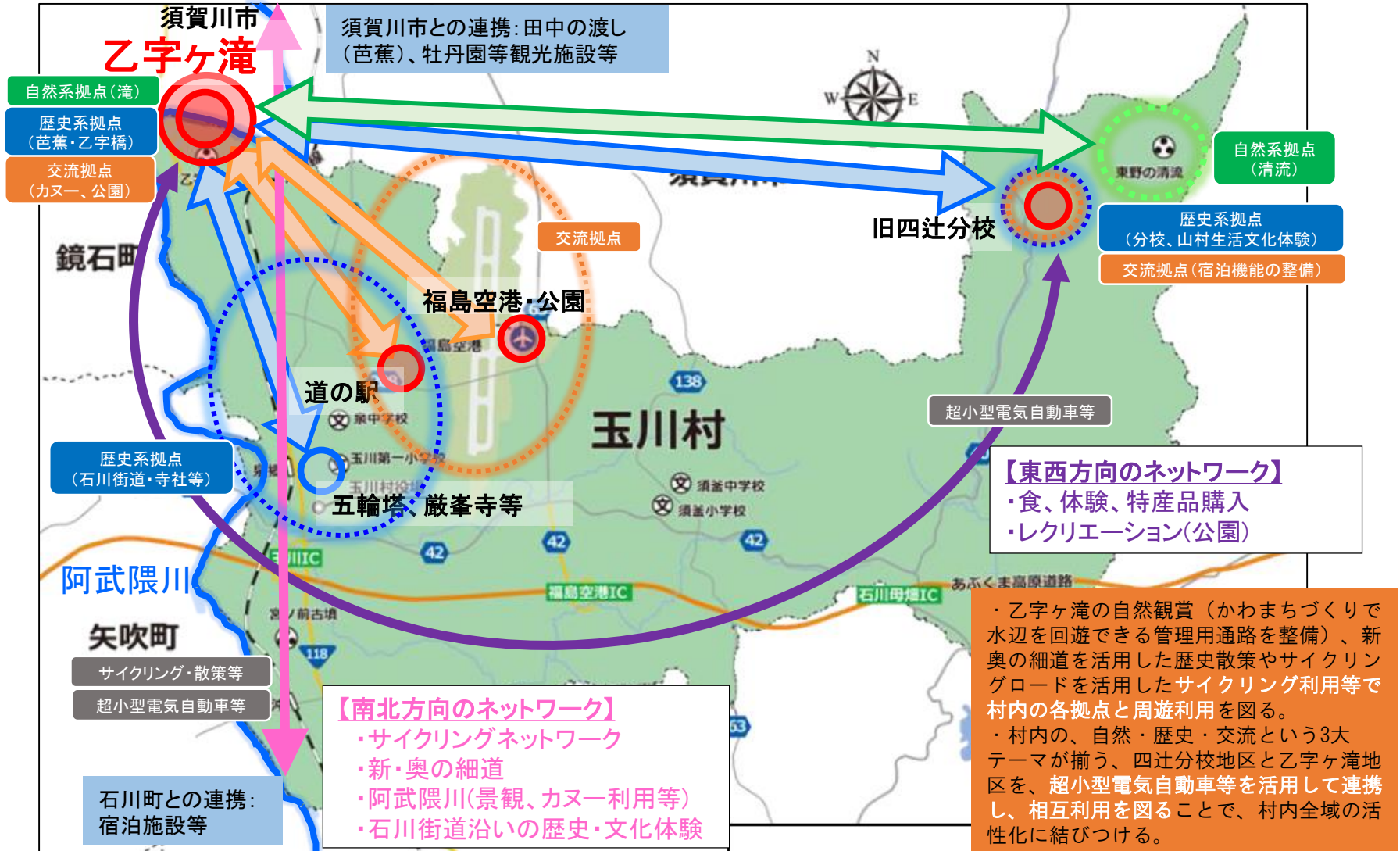
乙字ヶ滝には、**自然**（乙字ヶ滝等）、**歴史**（芭蕉、不動堂、乙字橋）、**交流**（サイクリングロード、新・奥の細道、公園）の各要素があり、村内の同様なテーマの地区とネットワークを形成し、周遊を主体とした活用を図っていく。

周遊性を高める際の誘客ターゲットとしては、当村のみならず近隣市町村への来訪者などを想定し、**各拠点間を超小型電気自動車等の交通手段でつなぐこと**や、**既存サイクリングネットワーク**を利用するなどの方法で、かわまちづくり乙字ヶ滝地区に呼び込むこと



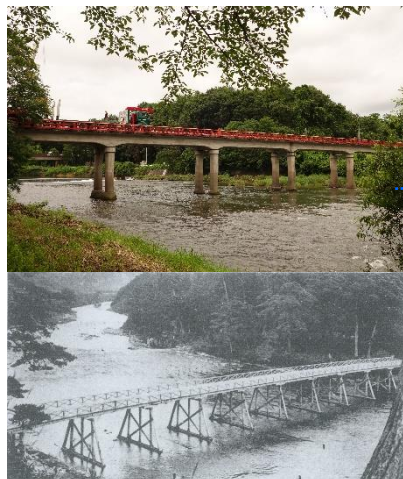
阿武隈川玉川村乙字ヶ滝かわまちづくりの目的・テーマ

- 村内の地方創生事業とかわまちづくり計画を有機的に連携し、新たなネットワークのテーマに沿って、村内及び周辺市町村の主要拠点が一体化した活用を図る。



玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり計画地の現状

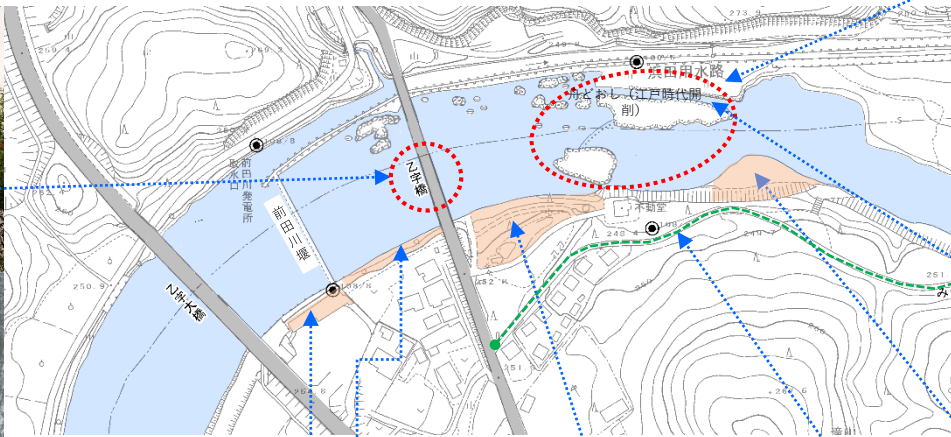
かわまちづくり計画対象地は、自然や歴史的環境に優れており、写真撮影やサイクリング、散策などが行われているが、休憩施設が乏しく、長く滞在できる場にはなっていない。



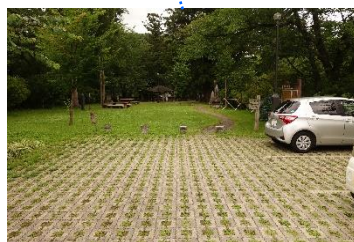
乙字橋は明治24年（下写真）に架け替えられ、さらに、昭和2年に永久橋として落成した、地域のシンボルの景観。
歴史施設・資源



旧乙字亭は隈研吾氏設計の蕎麦屋だったが、現在は廃業。空き店舗となっている。
交流施設



乙字大橋－乙字橋間の河岸は現在水辺に近づくことはできない。



乙字ヶ滝公園は、駐車場・トイレ・園地等がある。園内には不動堂の建物や芭蕉の石碑等がある。
交流施設 歴史施設・資源



乙字ヶ滝（日本の滝100選）

自然資源



乙字ヶ滝の舟通し

歴史施設・資源



「水辺の小楽校」の階段は一部自然石であり、歩きづらい。
自然資源



乙字ヶ滝公園に隣接して、乙字ヶ滝地区が起点のみちのく自転車道が通っている。
交流施設

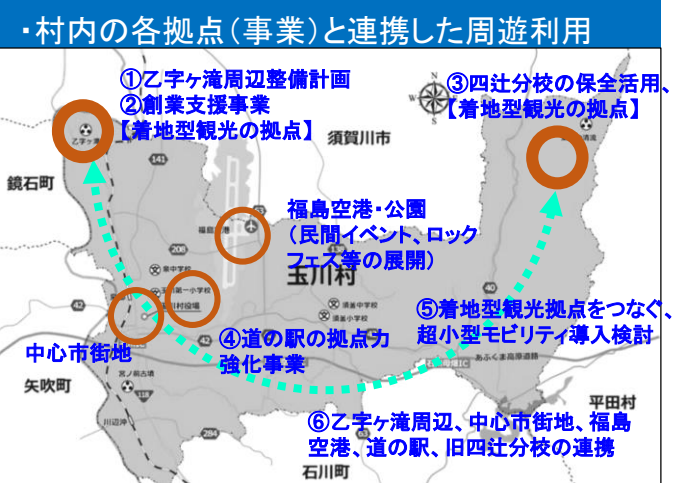
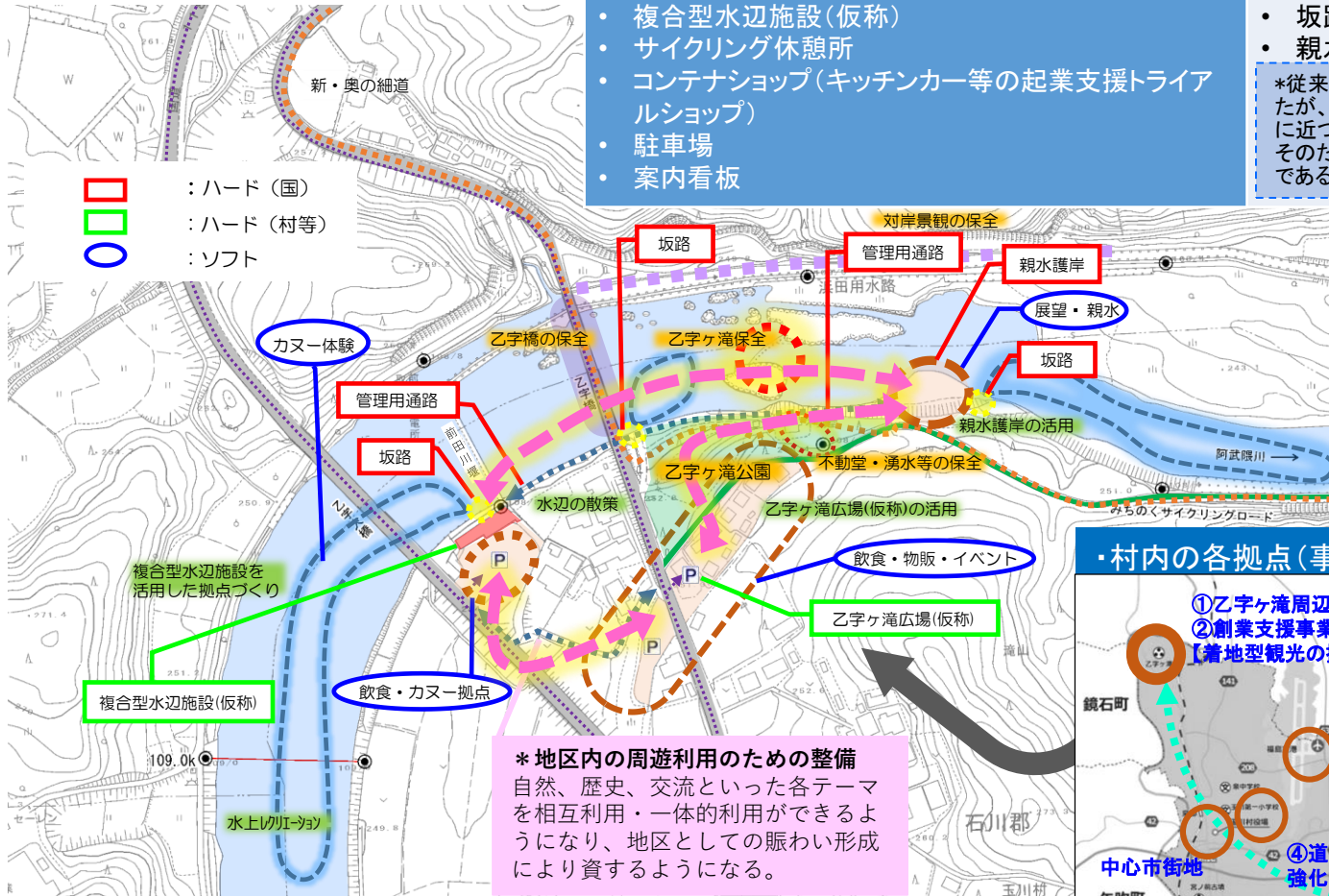
玉川村が考えているまちづくりの計画・方針（目標）との一体性

＜整備内容＞

- 地区の自然・歴史を活かし、人々が憩い、滞在することができる空間を整備し、新たな交流と賑わいが生みだす。

整備メニュー

玉川村	国土交通省
<ul style="list-style-type: none"> 乙字ヶ滝広場(仮称)の基盤施設 複合型水辺施設(仮称) サイクリング休憩所 コンテナショップ(キッチンカー等の起業支援トライアルショップ) 駐車場 案内看板 	<ul style="list-style-type: none"> 管理用通路 坂路 親水護岸 <p>*従来は橋や公園遊歩道等から巡視していたが、一部視野に入らない箇所や低水河岸に近づけない等、全体把握が困難であった。そのため、河道に沿った管理用通路が必要である。</p>



玉川村が考えているまちづくりの計画・方針（目標）との一体性

<利活用内容>



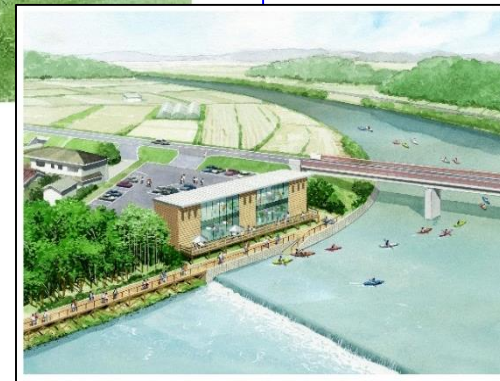
■親水護岸周辺

- 自然景観や歴史的な乙字橋の観賞
- 管理用通路の広場の活用
- 安全な写真撮影
- 休憩（散策、サイクリング利用者等）
- カヌー等（坂路利用）
- オープンカフェ等の利用（乙字ヶ滝広場購入品の飲食等）



■乙字ヶ滝広場（仮称）

- キッチンカーなどによる飲食販売・購入・広場等での飲食
- 物品販売・購入
- 超小型電気自動車の立寄り休憩利用
- サイクリング休憩、自転車のレンタル利用
- 乙字ヶ滝の写真や関連した俳句の展示鑑賞
- イベント、季節行事の開催



■複合型水辺施設（仮称）

- 阿武隈川を望みながらの飲食・休憩（複合施設内）
- カヌー利用（坂路や建物の利用）
- カヌーの保管・貸出
- カヌー教室
- 村内の観光情報提供
- 体験工房

■管理用通路

- 地区内の複合型水辺施設（仮称）、乙字ヶ滝公園、展望広場（仮称）等を結び、地区の周遊利用を図る
- 河川巡視利用（滝や堰等における、流木等流下阻害物等の巡視）

河川空間の継続的な利活用を図っていくための取り組み

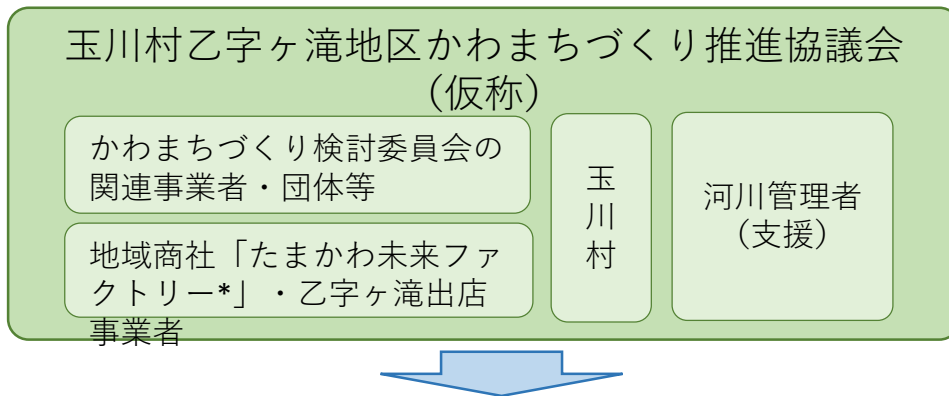
<維持管理計画>

【役割分担】

河川管理施設（管理用通路、坂路、親水護岸等）：国土交通省

その他の施設（公園、建築物、サイクリング休憩所、案内看板等）：玉川村

※ただし、各施設における清掃等の日常的な管理は、出店事業者や市民団体等との連携により、玉川村及び関係機関（地域商社等）で実施する。



- 日常的な清掃・除草等
- かわまち利活用に関する協議
 - a. 川に関する環境教育、啓発活動
 - b. 体験学習等の実施（カヌー体験等）
 - c. 利活用、施設運営
 - d. イベント企画・運営
 - e. 創業支援による民間事業者の公園内営業等に対する支援 等

*玉川村（自治体）からの細かな要望に応え、商材の企画開発、プロモーションや販売をワンストップで提供する、地域に根ざした民間の商社会社。玉川大学と連携して開発した特産品（さるなしジュースやジャム等）をネットにて販売。 本社：玉川村小高字北畷。平成30年11月設立。



村民による草刈り



玉川村が取得した建築物の水防対策は、河川管理者の技術協力等支援の元、玉川村が実施する。また、維持管理・活用については、玉川村と運営事業者等が協議の上、玉川村と運営事業者等が連携して実施する。

広報誌たまかわ2019年4月号における、観光施策の村民への周知

乙字ヶ滝地区や四辻分校等を、村内の観光拠点として紹介

乙字ヶ滝整備計画

現在、乙字ヶ滝かわまちづくり検討委員会において「かわまちづくり支援事業計画」を策定中であり、計画策定後には、国土交通省との連携により、観光面の環境整備を行います。



旧四辻分校活用

旧四辻分校を宿泊可能な施設に改修し「自然を感じ、遊び・学べる著地型観光地」として農業や自然、創作などの体験観光を提供します。



再利用を行う予定の旧四辻分校

若者の創業支援

キッチンカー等による起業・創業の足がかりとなる挑戦の場を取ります。更には、空き店舗等を活用しながら、昼と夜で経営主体が代わるシェアリングエコノミーの仕組み等、現代の購買ニーズに合わせた経営支援を行います。

商業支援

平成29年度には、玉川村観光産協会も発足し、今後の観光や商業振興等について話し合いを行っています。

また、地域商社機能を持った「たまかわ未来ファクトリー株式会社」が昨年誕生し、玉川村の特産品ネット販売を手掛けている。今後、たまかわ産米の販売も支援していく予定です。



さるなし販売促進パンフレット



販売を予定しているたまかわ米

着地型観光予定商材

- ・乙字ヶ滝周辺のサイクリング
- ・東野の清流散策
- ・方丈一
- ・農業
- ・釣りや登山散策
- ・バギー
- ・サバイバル
- ・ツリーアドベンチャー
- ・焚火
- ・DIY
- ・MTB
- ・スケートボード etc



展開が必要となってきます。着地型の観光には、有形の経済効果以外にも、地域の良さを私たちが再発見するという無形の価値もあります。迎え入れる側にとっても「いいところ」「のび」とことを責めると響くと思えます。そこで初めて郷土や地域への誇りが芽生えることもあります。つまり、私たち住民にも、観光客との交流は楽しく面白いということを感じていただく、玉川村がさらに活気づくことを目指していきます。



これからの「たまかわ」の観光

まそび遊の里

自然を感じ、遊び・学べる着地型観光地づくり

ハードのアクションプラン	
①地域の文化や暮らしの記憶を継承する!	ACTION-H-1 旧四辻分校の保存・活用
②美しく豊かな風景を守る!	ACTION-H-2 泊まれる環境づくり
ソフトのアクションプラン	
③体験型ビジネスの拠点を発見・創出する!	action-S-1 シェアビレッジの推進
④着地型観光の拠点をつなぐ!	action-S-2 地域の観光資源化
⑤たまかわの「わ」を育てる!	action-S-3 地域産品の販売促進
⑥モノとコトを発信する	action-S-4 民泊の促進
	action-S-5 運営組織の立ち上げ
	action-S-6 地域のブランディング・PR

※アクションプランは、社会情勢の変化に伴い見直しを図ります。

玉川村では、地方創生推進事業を推進しており、これまで、道の駅「こふしの里」の販売力強化事業や披露、加工所の整備等を行ってきました。今月号の特集では、これからのたまかわの観光化計画についてご紹介いたします。玉川村は、福島空港やJRの駅が2つ、あぶくま高瀬自動車道のインターチェンジが3つあるという、交通の便に優れた村ですが、観光面では、これまで地域を素通りする「視察型」が主であり、空港公園や乙字ヶ滝、道の駅、南須金の念仏踊りなども来て見て帰るだけということも多くありました。しかし、これからの観光を見据えた場合、どのように交流人口を増やし、地域にお金を落としてもらえようような働き方を創出できるかを考えて行かなければなりません。そこで、着目したのが「着地型」の観光です。観光で訪れた方が、観光地やイベント等を見て帰るだけでなく、地域の中に入り込んで様々な体験を通じ、その地域の良さを知って帰ってもらうという

乙字ヶ滝地区における、着地型観光の素材（商材）を紹介

村として、着地型観光・体験型観光を志向

かわまちづくりの整備により、乙字ヶ滝広場（仮称） [=P14] にて、展開を計画

